B19 鉄道車両客室におけるヒョウヒダニ汚染

上原弘三[○]・田口小百合・永田健二（神東塗料）、豊田泰紘・松村武男
（神戸大・医・医動物）、小西英二（神戸大・医・医療基礎）

Infestation of *Dermatophagoides* mites in railway vehicles

Uehara, K., Taguchi, S., Nagata, K., Toyoda, Y., Matsumura, T.
and Konishi, E.

ダニアレルギー患者の生活環境におけるヒョウヒダニの汚染状況を把握することは、発作予防はもとよりアレルギー治療において重要である。我々はこれまで、不特定多数の人々が利用する公共施設（病院、ホテル、旅館、映画館、オフィス等）に着目し、ヒョウヒダニ抗原分布を調査してきた。今回、毎日の通勤や旅行で利用する鉄道車両客室内を対象とし、関西鉄道会社6社の通勤列車と寝台列車を調査した。紙パック式ハンディタイプのクリーナーを用いて座席の25cm × 25cm 範囲の塵を15秒間かけて採取した。塵中のヒョウヒダニ抗原量は既報に従って測定し、 m^2 当たりのダニ抗原量に換算後比較検討した。10月に行った調査の結果、 m^2 当たりのダニ抗原量は、全て $10\mu g$ 以上であり、一般家屋と比較して明らかに多くの抗原量が観察された。また、 g 当たりの抗原量では、寝台車において高い傾向がみられた。

B20 寝室の掃除機による2年間のダニ除去の試み

武田富美子[○]・當間孝子（琉球大学・医・保健）、
宮城一郎（琉球大学・医・保健、琉球大学・医・地域医療研究センター）、
岸本眞知子（岸本こどもクリニック）

Elimination of mites in bedroom by a vacuum cleaner during two years

Takeda, F., Toma, T., Miyagi, I. and Kishimoto, M.

1年目は、週に1度布団に掃除機をかけることによって、沖縄県でも敷布団のダニ数を低密度（ $100\text{頭}/m^2$ 以下）に維持することが可能なこと、しかしそれでもダニ数は4～6月の梅雨時には増加することを報告してきた。2年目にあたる本研究では、床や掛布団についても検討した。前年のモニターの中から7名に依頼し、1994年11月から1995年11月までの1年間、2ヵ月に1度、前年と同じ方法でサンプリングし、ダニを計数した。

床は布団に比べ掃除回数が多く、年間を通してダニが低密度に維持されていた。夏期に使用されていなかった掛布団は再使用時（11月）に多数のダニが検出された。沖縄県での冬場の喘息症状悪化の要因として掛布団のダニの増加による可能性が考えられた。